

JASCT

ニューズレター

第13巻第1号

平成6年(1994年)3月

発行人: 松本清一 印刷所: 絢文社

第23回 性治療研修会

日時 平成6年4月24日(日) 午前9時30分～午後4時30分

場所 日本赤十字看護大学講堂(東京都渋谷区広尾4-1-22)

プログラム

最近のインポテンス治療の進歩

聖マリアンナ医科大学泌尿器科講師

矢島通孝

セックスレスの概念と診断治療

順天堂浦安病院神経精神科助教授

阿部輝夫

JASCTカウンセリング室カウンセラー

渡辺景子

性カウンセリングの理論と実際 (小グループでROLE PLAYINGを体験)

PHR財団ストレス科学研究所副所長

河野友信

日本赤十字社医療センターカウンセラー

金子和子

順天堂浦安病院神経精神科助教授

阿部輝夫

JASCTカウンセリング室カウンセラー

渡辺景子

レイプの現状と治療者の対応

弁護士 角田由紀子

第14回 日本性科学学会

メインテーマ 「見直そう新しい時代のヒューマンセクシュアリティ(人間の性)を」

日時 平成6年10月23日(日) 午前9時～午後6時

場所 山形市中央公民館(山形市七日町1-2-39 TEL 0236-23-2150)

学会長 広井正彦(山形大学産婦人科教授)

参加費 一般 3,000円 会員、教職関係者 2,000円 学生 1,000円

演題申込み締切 平成6年6月30日(木)

一般演題テーマ (1) 幼児期からの性教育 (2) 性の臨床 (3) 中高年の性 (4) その他

連絡先 〒990-23 山形市飯田西2-2-2

山形大学医学部産婦人科学教室内 第14回日本性科学学会事務局

(TEL 0236-33-1871 FAX 0236-25-2722)

Vol.13

No.
1

JASCT 事務局

〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

激しい精神的混乱から治癒へ

神尾記念病院 堀 一子
JASCTカウンセリング室

その事件は、H子さんが母親に、自分が原因で彼女達夫婦が10年たった今も未完成婚であるということを電話で打ち明けたことから始まりました。H子さんの症状は、ワギニスムスでした。つまりH氏が挿入しようとする、H子さんの膣が痙攣し、痛みと恐さのため一度も挿入できていなかったのです。大変悩んだ末の告白でした。その時彼女の内面で尋常ならぬエネルギーが動きました。H子さんはアパートの隣人に電話の内容を全て聞かれてしまったという妄想を持てしまいました。日本の住宅事情からして、それは全く無いことではないかもしれませんが、聞かれただけでなく、その人が近所に言い触らし、近所で彼女達夫婦のセックス事情を話題に夜どうし騒いでいるとH子さんはおっしゃるのです。H子さんは、母親に秘密を打ち明けたのを境に、急激に幻聴を伴う精神病に陥っていったのです。夜中に騒がれていると思っているのですから眠れない日が続きました。ようやくとうとう眠りにつくと枕の下から、「何時まで寝てるのよ、あんなに早く寝たくせに。きっと子どもがいないからよ」と、階下の人が怒鳴り（という幻聴に）、パッと目が覚め家にいらなくなりました。H氏と二人でホテルへ逃げ込みました。ところが、そのホテルの隣の部屋でも彼女がセックスできないことを話題にしています。妻に促されH氏が壁に耳をあてて聞くと確かに話声は聞こえますが、「明日どこへ遊びに行こうか」という内容のものです。すると、H子さんは「盗聴器をつけてこっちが壁に耳をつけたのが分かったから、話題を変えたのよ」と言うのです。H氏は当然精神科を考えました。ところが、H子さんはどうしても性の治療に行くと言い張り、2人はホテルから直接当治療室に來たのです。母親へ電話をしてから5日目のことでした。

しかし、いくらご本人の強い希望でもその状態のままでは性の治療にはいけません。まず精神科の治療を始めました。2ヶ月程してひどいパニック状態から脱し、2人は精神科医の許可を得て再び治療室に現れました。H子さんは「根底に性の問題があるのだから、是非この時点で治したい」とおっしゃいます。しかしその日も面接室で、話しをするご主人に「ちょっと小さい声で話してよ」と制し「今ここにいても誰かに聞かれているような気がする」とおっしゃるのです。精神科の治療を今まで通り続け、精神科のドクターストップがかかったときは、性治療は速やかに中断することを条件に、治療は再開されました。

H子さんは男尊女卑の家風の強い家に生まれました。H子さんに妹が生まれたとき、父親は一晩中やけ酒を飲んでいました。H子さんは、当然自分の出生も父親から喜ばれなかったと確信しています。

父親は、ことある毎に自分の妻を蔑み、娘たちに「お母さんのように家のことしかできないつまらない女になるな」と言っていたそうです。母親へのH子さんの気持ちは今も複雑です。面接中母親のことにふれると、彼女は顔が紅潮し涙を流すだけです。かつて女学校の先生をしていた気むずかしい姑と、外面は良くても家では暴君のな夫に仕えることだけに神経をすり減らし、娘達に母親らしいことは何もしてやれず、女性としての誇りを示すことが一切無かった母親を、一方ではかわいそうと思いながらもH子さんも軽蔑しています。その結果、彼女は母親に強い後ろめたさを感じています。そして、かつてはH子さんの価値基準であった父親ですが、このように母親を尊敬できなくさせてしまったということで、今はH子さんの恨みの対象になっています。H子さんは、母親を通して得るべき良き女性イメージが持てず、女になり損ねてしまったことで、今、父にも母にも怒りを感じています。

H子さんにとって実は女性性は長い間、問題になっていませんでした。少なくとも教師を目指して勉学に勤しんでいた頃までは。しかし、彼女が何度も教員採用試験に失敗を重ねているうちに、あとから教師をめざした夫は試験にパスし、2人の役割の違いがだんだんはっきりしてきました。娘婿が自分と同じ教師の道に入ってくれて、いつの間にか父親の娘に対する教師への期待は消え、家族の彼女への期待は早く子どもを生むことに変わっていました。周りの情勢を見てもこれ以上教員採用試験を受け続けることは無理です。彼女自身、力の限界を感じ教師への道を諦めました。その時から彼女のアイデンティティが揺らぎ始めたのです。それまでH子さんは、学校の先生という女性像のみを自分に当てはめてきました。先生だから、たとえ女であっても自分を受け入れることができたのです。女性が女性だけの部分で存在することを卑しいことと思い込まされてきたH子さんは、先生でない自分をどうしても受け入れられなくなったのです。ワギニスムスという症状も、性行為を女の卑しい部分と彼女がみなしたことから起きていることでした。

奇しくも教師像を自分から外したときから、本当の女になるための作業が始まりました。さて、彼女に心の深いところでその課題に向かわせその作業の進行を支えたのは夫でした。H氏の女性観は、彼女が今まで持っていた女性観と全く異なっていました。H氏は女性が女性のままで存在することを、気負わず尊重できる人だったのです。

しかし、今までの価値観を崩壊させ全く異なった価値観を受け入れるには、よほど大きなことが起きなければなりません。彼女はその時、狂気の世界に入ったのです。平常の神経ではこの変革を受け入れることができなかったのです。正に彼女は精神の混乱の中で、急激な速度で治っていきました。それを見守っていたH氏と私ですが、多大な心的エネルギーを使ったような気がしました。

最終回、うっすら涙を浮かべ、「私達、夫婦になれたのですね」とおっしゃった彼女の表情が、とても穏やかでした。

Impotence NIH Consensus Conference より

(第一回)

長 田 尚 夫
矢 島 通 孝
聖マリアンナ医科大学泌尿器科

1993年7月7日発行のJAMA (The Journal of the American Medical Association) 270 巻1号にNIH Consensus ConferenceとしてのImpotence がとりあげられていた。これはインポテンスの人口統計学、疫学、危険因子、病態生理、診断法、治療法について何が分かっているのかを調査するために、National Institute of Diabetes and Digestive and Kidney Diseases と Offices of Medical Applications of Research of the National Institute of Health が、National Institute of Neurological Disorders and Stroke および National Institute on Aging とともに1992年12月7～9日、インポテンスに関するConsensus Development Conferenceを開催した。男性性機能障害や勃起障害に関連した分野の専門家による1日半に及ぶ発表の後に、泌尿器科学、老年学、内科学、内分泌学、精神科学、心理学、看護学、疫学、統計学、基礎科学、そして一般の代表者によって構成された consensus panel で検討されたものである。このJAMAの論文を私なりにまとめて紹介する。

インポテンスは米国で約3000万人が悩んでいるといわれており、男性が満足ゆく性交を行うのに十分な陰茎の勃起の発現と維持ができない状態を指している。勃起現象は、筋肉、神経、血管の複雑な関連した働きの結果としておこり、しかも心理的因子と行動的因子によって影響されている。

高齢者が増加するにしたがってインポテンスに悩むものが増えて治療を求め勃起力を回復したいと思うのは当然である。一方において検査や治療をおこなうことに十分に理解されていないということが指摘されている。

また、インポテンスという言葉は明らかにマイナスのイメージをもっており、このpanelでは勃起障害 (erectile dysfunction) というより specific な言葉を用いることを提案している。

勃起障害のリスクは加齢で増加するが、また糖尿病、高血圧、高コレステロール、低濃度のリポ蛋白、パイロニー病、持続勃起症、うつ状態、神経系や血管系に悪影響を及ぼす病気や外傷、薬物がリスクとしてあげられている。喫煙は直接勃起障害の原因にはならないが、血管系疾病や高血圧の危険性をはらんでいる。

勃起障害はしばしば心理的因子や物理的因子の合併をもたらすので、不安に関する教育は、勃起障害を予防したり、重症を軽症にしたりする。

勃起障害を訴える患者には、この報告では注意深く詳細な臨床歴と性歴をとることをすすめている。そして、理学的検査ラボ検査をおこなうとともに心理的因子を見出したり潜在疾患を発見するための検査をすすめている。

この報告では、しばしばネグレクトされている診断法であるが、性歴が患者の真の訴え、期待、その後の診断や治療へのモチベーションを評価するのに有効であるということを強調している。可能ならば性パートナーへのアプローチも必要である。

理学的検査としては、精巣、陰茎、前立腺、肛門括約筋の緊張度、大腿動脈や足背動脈の脈触知、会陰部の知覚や球海綿体筋反射といった神経学的検査があげられる。神経障害が疑われればもっとつっこんだ検査が必要となろう。

ラボ検査としては、検尿、血算、クレアチニン値、脂質、空腹時血糖、甲状腺機能、早朝テストステロン値があげられる。低テストステロンに対してはさらに検査が必要であり、LHやプロラクチンが測定されるべきである。

その他の検査として次の項目が症例によって有用の検査として加えられる。

夜間睡眠勃起検査は、勃起が完全に欠如している場合、ないしは基本的に心因性の原因が疑われる場合に有用であろう。

陰茎海綿体注射は血管系手術、インプラント挿入を真剣に考えている症例のみに陰茎血管系を評価するため血管拡張剤の海綿体内注射をおこなう必要がある。このテストで陰茎勃起が生じるならば、自宅での海綿体内自己注射療法が選択されるだろう。しかしながら、このテスト時に不安や不快を感じると、適切な血流動態があっても勃起をさまたげることがある。

さらに詳しい血管系検査としては、duplex color ultrasonography (陰茎内の動脈の状態を超音波を用いて調べる方法)、dynamic infusion pharmacocavernosometry - cavernosography (陰茎海綿体注射前後で陰茎海綿体内圧測定および陰茎海綿体造影をおこない、静脈閉鎖機構の状態を調べる方法)、pharmacologic pelvic/penile angiography (陰茎海綿体注射を併用した動脈造影法) が、陰茎海綿体内注射テストに反応しなかった若年者において、血管障害を詳細に調べることとなる。とくに会陰部外傷や骨盤外傷の既往のあるもの、そして血管系の手術を希望するものには欠かせない。

これらの検査は勃起障害の血管系の状況を判断できる専門家によっておこなわれるのが最もすすめられる。

つづく

地方活動の紹介

相談所を開設して20年

長池優生保護相談所 長 池 博 子

「妊娠」は産婦人科の医師として大歓迎であるが、望まない妊娠で人工妊娠中絶の相談を受ける時は実に悲しい。1年に4回も人工妊娠中絶をする人があって、これは何とかしなければ…と思い、優生保護法に則って受胎調節指導を目的とした相談所を開設した。

昭和48年から受胎調節実地指導員の資格のある保健婦や助産婦の協力のもとに事業を開始した。相談所の玄関や待合室はクリニックとは別にして、顔を合わせることが無いようにした。実は以前からSexに関する相談は、多くの外来患者の出入りする診察室では不適當と考えていたので、プライバシーを守る為にも予約してSexカウンセリングをするのに相談所は適切な場所になった。

しかし、Sexに関する知識は学生時代に講義を聞いたわけでもなく、卒業後特別な研修の機会も殆どなく、当時季刊誌「現代性教育研究」とか、メディカル トリビューン 日本支社発刊の「Sexual Medicine」から得た知識が大部分であった。そしてJASCTの存在を知り、日母の野末先生や故長谷川先生が中心となつての研修会に出席させて戴くようになった。米国性科学学会長を招いた研修会や、有名なカプラン女史の講演会などで、大変啓発され、また勉強することができた。度重なる研修会では精神科的分野や泌尿器科的分野の講義を聞くことが出来て、読む以上の知識が得られた。

昭和62年には仙台で第7回性科学学会を開催するに当たり会長を無事に果たすことが出来た。東北大学産婦人科教室と日母宮城県支部の先生方のご支援のお陰である。

Sexカウンセリングは一例毎に難しく、力量が問われるところである。昨年の春、大学の先生から一組の夫婦を依頼された。8ヶ月かかってやっと効果が見えてきたところ、今年になって妊娠したことが確実になった。Sex相談の最高の喜びを感じる瞬間である。

JASCT第15期会計報告

(平成4年10月1日～平成5年9月30日)

JASCT会長 松 本 清 一 ㊤ JASCT監事 飯 沼 守 夫 ㊤

事務局からのお知らせ

年会費納入の時に御利用いただいておりますJASCT事務局の郵便振替口座番号が、平成6年5月1日より変更されます。

年会費未納で、お手元に古い番号の郵便振替用紙をお持ちの方は至急、年会費の御振込みをお願い致します。

古い口座番号 東京1-18252 新しい口座番号 00110-6-18252